

令和3年度 学力向上指導改善プラン

武庫小学校長 松田 文貴

学校教育目標		来を行き向く力と健やかな「からだ」の育成 認め合い 学び合い 高め合
推進主体		管理職と研究推進担当を中心に 学力向上推進委員会を設置
学力に関する前年度の状況・経年の課題等		
学 力 の 状 況	これまでの全国学力・学習状況調査結果の状況(教科に関する質問紙調査の結果も含む)	<p>◆質問紙の「5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICTをどの程度使いましたか」という問いに対して、月一回未満と答えた児童が53.9%とかなり多く、課題がみられる。</p> <p>◆問題を読み取り、題意を把握したうえで自分の考えを書いたり、その理由を話したりすることに課題がある。</p>
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<p>◆テストにおいて、記述での回答を要する設問において無回答の児童が各学年数名いる。</p>
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<p>◆ベアトークで、自分の意見を言う児童が増えてきつつあるが、何をどのように話せば効果的であるのか探っていく必要がある。</p> <p>◆また、全体の場で自分の考えを積極的に説明する児童は限られている。</p>
習 慣 力 向 上 生 活 に 習 慣 等 学 習 の 習 慣	学校評価などのアンケート調査やこれまでの全国学力・学習状況調査の質問紙の経年変化による児童・生徒の状況	<p>◆過去5年の学力調査の結果から、家庭での学習や読書習慣に課題がある。</p>
校 内 研 究 状 況・ 研 修 の 状 況	校内研究の状況	<p>◆ICT機器の活用を進めることで子どもが主体的に対話的に、さらに深い学びができるよう、まずは教職員が扱えるようになることと子どもが基本的な操作をできるようにすることに取り組む。</p>
	校内研修の状況	<p>◆児童の生活背景や学力調査の結果をもとに、課題に対して個に応じた指導ができるように職員で共通理解する場を持つ。</p>
家 庭・ 携 校 種 間 連 携	家庭・地域等の状況	<p>◆児童の生活背景を十分に把握したうえで、児童理解に努めるとともに家庭学習や適切な生活習慣などを身に付けられるように保護者との連携を大切にしている。</p>
	小・中における教科連携等の状況	<p>◆オープンスクールの参観、中学校の教師による出前授業(理科・外国語)が実施されている。また、生活指導担当教員での小中共同研修や特別支援学級の交流会が開催されている。</p>

		4月		2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的手立て等)	年度末評価	
				(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
	○どの学年の児童にもICT機器を積極的に活用させ、これからのスマート社会でも生き抜いていけるよう方法の一つとして、タブレットを使いこなせるように指導する。	○質問紙の「5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICTをどの程度使いましたか」という問いに対して、月一回未満と答える児童が0%。	○授業で活用が進むように、校内研修会を多く持ち、まずは、教員が抵抗感なく使えるように進める。 ○デジタル教科書を積極的に活用し、視覚にアプローチをし、算数の学習の理解を深める。 ○「まず」「次に」「だから」「そのわけは」「これによって」など筋道立てた言葉で低学年から丁寧に指導し、リレー説明、なりきり説明、小グループでの交流など、自分の考えを伝える練習ができる場を多く設定する。	○ICT機器を使用していると答えた児童は、県・全国よりも10%多く、調べ学習や意見交換にどの程度活用しているかという問いでは肯定的な意見が約30%高かった。 ●学年やクラスによってICT機器の使用状況にばらつきがあるので、引き続き教員が積極的に活用できるような研修会を持つ。	○
	○基礎的・基本的な練習問題に繰り返し取り組み、数や計算の知識、技能の定着を図る。	○学期始めの「チェックチェックテスト」で、個々の成長を見取り、週5日毎日10分の「のびのびタイム」に自分で課題を選んで取り組む。	○本校独自の「チェックチェックテスト」を実施し、児童一人ひとりの課題を年度始めに把握し、個に応じた指導に活用する。 ○週5日の「のびのびタイム」を有効に活用し、学年末に三田市算数検定を行い、基礎的な学力の定着を図る。	○学期始めの「チェックチェックテスト」で、児童一人ひとりの課題を年度始めに把握することで、個に応じた指導に活用することができた。 ○週5日毎日10分の「のびのびタイム」に、児童自身が課題を選んで基礎的・基本的な練習問題に繰り返し取り組み、徐々に数や計算の知識、技能が定着してきた。ミライードの算数ドリルも活用し、1問ずつ正答がその場でわかるので、苦手な問題にも楽しみながら取り組むことができた。 ●時間が経過すると、1学期2学期に学習した単元については、忘れてしまう児童も多い。学習内容を定着させるために繰り返し同じ問題に取り組みさせる必要がある。その時に、ミライードのドリルが有効と思われる。	○
	○自分の考えを発表やノートづくりで表現することができる児童の育成。	○問題解決の過程を筋道を立てて、表現することができる。 ○児童アンケートの「いろいろな考えを出していますか」で肯定的な回答の増加。	○ノートやホワイトボード、黒板などのツールを活用し、式や図、表などを使った話し合いを授業の中に意図的に組み込む。	○自分の意見を一度ノートに書くことで、話し合いの時に発表する子が増えた。 ○ノートに説明の図や言葉を書いたものを、ミラーリングで大型テレビに映すことで、図を共有しながら言葉で説明することができた。 ●自分の意見に自信がなくて、全体に発表することに抵抗を感じる子が多い。 ●1つの答えが出たらそれで満足してしまいう子が多い。 色々な考え方、方法を知ることが楽しいと思える工夫をすることが必要。 *来年度に向けてタブレットとノートの使い自分の考えを表現する場の設定をする	△
	○読書習慣の定着。	○児童アンケートの「家で本を読むのが好きですか」で肯定的な意見の増加。	○家庭読書の取り組みの継続。 ○図書委員会の活動の充実。	○毎月第3火曜日を家庭読書の日と設定し、1年間取り組んできた。その日は読書が宿題となるので、必ず家庭で読書し、読書通帳に記入した感想を書いたりすることができた。しかし、それ以外の日は、家庭で進んで読書に取り組む児童が多いとは言えない。今後は、月1回の家庭読書の日だけでなく、毎週金曜日は読書の宿題も出すなどの指導が必要である。 ●図書委員会の活動がなかなか充実させることができなかった。日課の当番活動だけでなく、もっと全校生が本に興味を持つような活動を考えていく。例えば、お昼の放送で読み聞かせを行ったり、本に関するクイズをしたりという活動を来年度は取り組んでいきたい。	△
	○低学年から、タブレットなどのICT機器を各教科で活用する。	○単元を通して学習計画や授業のめあてを立て、見通しを持ち、それに沿って学習を進めることができる。	○単元計画やめあてを見えるようにし、見通しを子どもたちと共有する。 ○単元や1時間の学習の計画の中に自力解決の時間を位置づける。	○今年度ほどの学年でも積極的なタブレットの活用が見られた。その中でも学力調査のアンケートでICT機器に関して、昨年度までは使っていないという意見が多かったが、今年度は使用していると答えている児童が県や全国で10%。また調べ学習や意見交換にどの程度使用してしまいかという問いでは肯定的な意見が90%近く高かった。 ・ICT機器をツールとして活用し、より深い学びへつなげるような授業づくりに関する研究を進めていく	○
	○児童の成長や課題、目指す児童像についての共通理解と個に応じた支援の充実を図る。	○児童理解に関わる校内研修会を定期的に開催する。	○定期的に研修会を開催し、児童理解や支援方法、支援体制を検討する。	○児童理解に関する研修や支援方法また支援体制について校内委員会を中心に研修を重ねて取り組みを進めてきた。多くの児童はできるようになったことを実感している。 ●児童アンケートの結果から学習について約1%の児童がわからない・9%があまり分らないと回答している。どの子もできた分かったかと思えるように個別最適な支援について今後も考えていく必要がある。	○
	○家庭における学習習慣を確立する。	○保護者アンケートで「家庭学習」の項目で肯定的な回答が90%以上となるようにする。	○家庭学習の手引きを作成、発行する。	○家庭学習の手引を作成したことで、自学自習に取り組める児童が多くなってきた。テストに向けての学習や自主研究など幅広い課題でも対応できている。各学年の課題に取り組み目安の時間が保護者にもわかりやすかったと好評であった。 ●学習しんどさを抱える児童ほど、家庭学習の手引を活用できていない。書いてある内容の意味を持ったものの、継続的に声掛けをしないと活用までは至らない。手引きを使用した課題など、教師側の工夫が今後必要である。	○
	○小・中の連携を行い、スムーズな校種間の接続を図る。	○年間2回、中学校の教師を招いて出前授業を行う。	○3学期に中学校の授業を体験し、中学校への不安感を減少させる。	○6年生では兵庫型教科書制を導入している。各クラス担任が教科を担当することで中学校入学前より多くの先生が自分たちに関わる体験をしている。相談したいことや教科に対する質問などを担任以外の先生に聞いている様子から、スムーズに中学校へつなぐことができると確信している。	○